

回覧

本埜中学校区にお住いの皆様

本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに係る説明会及び今後の対応等に係る意見交換会について（会議内容のお知らせ）

令和2年2月発行
印西市教育委員会 教育部 学務課

本埜小学校の児童及び本埜中学校の生徒の保護者の皆様を対象として、令和元年8月29日（木）に本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに係る説明会を開催し、令和元年12月19日（木）に本埜中学校の今後の対応等に係る意見交換会を開催しました。

説明会及び意見交換会の内容をまとめましたので、本埜中学校区にお住いの皆様にお知らせいたします。

【会議の内容】

■令和元年8月29日開催の本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに係る説明会■

平成31年4月の本埜第一小学校と本埜第二小学校の統合により、本埜小学校が開校したことに伴い、教育委員会及び印西市学校適正配置審議会での審議を経て「印西市学校適正規模・適正配置基本方針」における本埜中学校の学校適正配置シミュレーションを変更したため、変更後の本埜中学校の学校適正配置シミュレーションや基本的な考え方等について説明を行いました。

1 事務局の説明

◎はじめに

○市内の小・中学校の現状は、新たな宅地開発等に伴い、児童生徒数が増加している学校と、少子化の進展等に伴い、児童生徒数が減少している学校とがあり、学校規模の差が年々拡大している傾向にあります。

○教育委員会では、学校規模によって生じる課題を解消し、より良い教育環境の整備と、教育の質の向上を図るため、平成28年10月に「印西市学校適正規模・適正配置基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定し、学校適正規模の基準などを定めて、市内の小・中学校の学校適正配置を進めています。

○現行の基本方針における本埜中学校の学校適正配置シミュレーションは、統合先を滝野中学校とし、本埜第一小学校区は滝野中学校区へ、本埜第二小学校区は小林中学校区への再編を進めることとしていましたが、平成31年4月の本埜小学校の開校に伴い、このシミュレーションでは対応できなくなったため、教育委員会では、現行の基本方針の考え方を基本とし、印西市学校適正配置審議会での審議結果を踏まえ、本埜中学校の学校適正配置シミュレーションの変更を決定したところです。

○変更後の本埜中学校の学校適正配置シミュレーションでは、統合先を滝野中学校とし、通学距離が遠距離となる場合については、隣接する小林中学校及び印旛中学校と連携して、通学区域制度の弾力的な運用を行うことにより、より近い中学校へ通学ができるよう配慮することとしています。

(1) 基本方針における学校適正規模の基準

教育指導面や学校運営面の観点から、本市における学校適正規模の基準を次のとおりとしています。

小学校

区分	通常学級数	状況	対応
過小	5以下	複式学級や欠学年を有する。また、クラス替えができない。	適正規模化を実施する。
小規模校	6	クラス替えができない。	適正規模化を検討する。
準適正規模校	7~11	クラス替えができない学年がある。	児童数の推移を注視する。
適正規模校	12~24	クラス替えができる。	
大規模校	25以上	施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	児童数の推移を注視し、適正規模化を検討する。

中学校

区分	通常学級数	状況	対応
過小	3以下	クラス替えができない。また、専任の教科担任を配置できない教科がある。	適正規模化を実施する。
小規模校	4~5	クラス替えができない学年がある。また、専任の教科担任を配置できない教科がある。	適正規模化を検討する。
準適正規模校	6~11	クラス替えは可能であるが、専任の教科担任を配置できない教科がある。	生徒数の推移を注視する。
適正規模校	12~24	クラス替えが可能で、専任の教科担任を配置できる。	
大規模校	25以上	施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	生徒数の推移を注視し、適正規模化を検討する。

(2) 本榊中学校の状況

① 生徒数及び学級数の現状

	1年	2年	3年	合計
生徒数	12	18	16	46
学級数	1	1	1	3 (1)

※令和元年5月1日現在。

※ () の数字は、特別支援学級の数。

→ 小規模校（過小）の状態

小規模校（過小）による課題解消のため基本方針に基づく適正規模化を実施。

② 今後の生徒数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
1年	18	17	15	16	13	16
2年	12	18	17	15	16	13
3年	18	12	18	17	15	16
計	48	47	50	48	44	45

※各年度の入学予定生徒数については、本榊小学校の児童数（令和元年5月1日現在）を基に算出。

→ 小規模校（過小）のまま推移

将来的にも小規模校（過小）の状態が継続し、さらに学区外就学等の状況により生徒数が減少する可能性がある。

③ 部活動の状況

部活名	加入者数	部活名	加入者数
陸上（男子）	9	ソフトテニス（女子）	16
陸上（女子）	5	吹奏楽	2
野球	7	水泳	1

※令和元年5月10日現在

④ 学区外就学の状況

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
本榊中学校の生徒数 (a)	60	62	68	65	62	46
他校に学区外就学している生徒数 (b)	13	13	15	12	8	13
学区外就学している生徒の割合 (b) / (a+b)	17.8%	17.3%	18.1%	15.6%	11.4%	22.0%

※各年5月1日現在。

※各年度の生徒数には特別支援学級を含む。

(3) 基本方針に基づく学校適正配置における小規模校の対応

単学級の中学校については、隣接校との統合を実施することとしています。

このため、単学級である本榊中学校については、現行の基本方針における学校適正配置シミュレーションでも隣接校との統合を進めることとしていました。

(4) 本榊中学校の学校適正配置シミュレーションを変更する理由

本榊第一小学校と本榊第二小学校が統合し、本榊小学校が開校したことにより、現行の本榊中学校の学校適正配置シミュレーションでは対応できなくなったためです。

(5) 印西市学校適正配置審議会における審議（条例に基づき外部の知識経験者で構成する審議会）

今回、本埜中学校の学校適正配置シミュレーションを見直すにあたり、現行の本埜中学校の学校適正配置シミュレーションの考え方を基本とし、4つのシミュレーション案を印西市学校適正配置審議会（以下「審議会」という。）で審議していただきました。

※記載しているメリットとデメリットについては、一般的に考えられる期待感や課題等を記載しているものであり、すべてが本埜中学校区に当てはまるものではありません。

【参考】基本方針及び審議会の審議結果等の詳細は市ホームページをご覧ください。

- ・基本方針 (<http://www.city.inzai.lg.jp/0000006000.html>)
- ・学校適正配置審議会関係 (<http://www.city.inzai.lg.jp/0000009522.html>)

■■審議会で検討したシミュレーション案■■

本埜中学校の学校適正配置シミュレーション 案		審議会 決定
1	<p>統合先は滝野中学校とし、旧本埜第一小学校区は滝野中学校区へ、旧本埜第二小学校区は小林中学校区とする。</p> <p>【イメージ図】</p> <p>本埜中学校 (旧本埜第一小学校区) → 滝野中学校</p> <p>本埜中学校 (旧本埜第二小学校区) → 小林中学校</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本方針に準じたシミュレーションであり、ある程度の通学距離に配慮している ○準適正規模校以上となりクラス替えが可能 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域が二分される形となる ○本埜小での人間関係が進学と同時に分かれてしまう ○学校と地域との繋がりが希薄化になる 	
2	<p>統合先は滝野中学校とし、隣接校である小林中学校及び印旛中学校と連携して通学区域制度の弾力的な運用を行い、小林中学校と印旛中学校への学区外就学を柔軟に認める。</p> <p>【イメージ図】</p> <p>本埜中学校 → 滝野中学校 (指定校)</p> <p>小林中学校</p> <p>印旛中学校</p> <p>※学区外就学を柔軟に認める。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本埜中の歴史と伝統は指定校の滝野中が継承する ○統合先を旧本埜村区域内の中学校とすることで地域のまとまりが期待できる ○指定校又は学区外就学でも準適正規模校以上となりクラス替えが可能 ○本埜小在学者全員で同じ中学校に進学できる ○通学距離が遠くなる地域についてはより近い中学校を選択できる <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学区外就学を柔軟に認めることにより、本埜小での人間関係が進学と同時に分かれてしまう ○学区外就学の場合、地区別活動時などにおける疎外感（児童・保護者ともに） ○学校と地域との繋がりが希薄化になる 	○
3	<p>統合先は小林中学校とし、隣接校である滝野中学校及び印旛中学校と連携して通学区域制度の弾力的な運用を行い、滝野中学校と印旛中学校への学区外就学を柔軟に認める。</p> <p>【イメージ図】</p> <p>本埜中学校 → 小林中学校 (指定校)</p> <p>滝野中学校</p> <p>印旛中学校</p> <p>※学区外就学を柔軟に認める。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本埜中の歴史と伝統は指定校の小林中が継承する ○指定校又は学区外就学でも準適正規模校以上となりクラス替えが可能 ○本埜小在学者全員で同じ中学校に進学できる ○通学距離が遠くなる地域についてはより近い中学校を選択できる <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学区外就学を柔軟に認めることにより、本埜小での人間関係が進学と同時に分かれてしまう ○学区外就学の場合、地区別活動時などにおける疎外感（児童・保護者ともに） ○学校と地域との繋がりが希薄化になる ○旧行政界を越えての統合に対する地域等の抵抗感 	

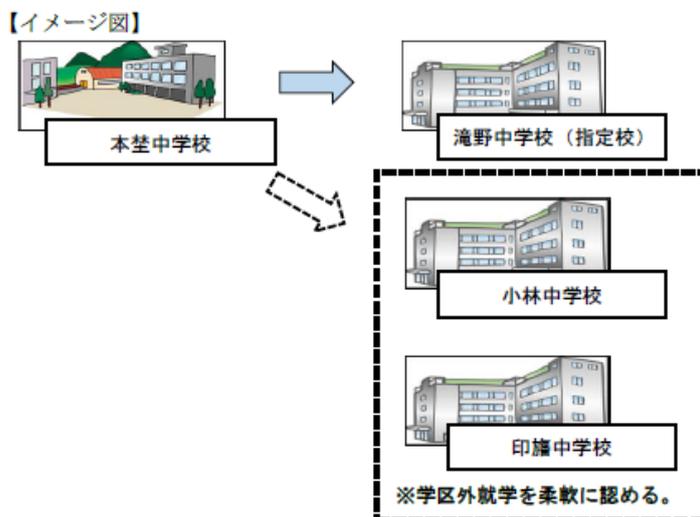
4	<p>隣接校である滝野中学校、小林中学校及び印旛中学校の中から学校を選択する。(指定校は滝野中学校)</p> <p>【イメージ図】</p>	<p>【メリット】 ※通学区域制度の弾力的な運用における制度の一つであり、基本的には、通学区域制度の弾力的な運用における学区外就学と同様</p> <p>【デメリット】 ○学校と地域との繋がりがより希薄化(複雑化)になる ○中学校区等を活動単位とした地域コミュニティ等への対応 ・市主催の防災訓練への参加 ・青少年相談員活動への参加 ・有価物資源回収の範囲など</p>
<p>※義務教育学校(小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校)の設置については、現行の学校適正配置シミュレーションにおいて、「検討した結果、設置後も適正な学校規模を確保することができず、人間関係の固定化や部活動の選択肢に係る課題等が依然として残る」としており、現在も状況は変わっていないため、義務教育学校の設置は困難であると考えます。</p>		
<p>※小規模特認校制度(小規模校において教育を受けさせたいと希望する生徒・保護者に、通学区域外からの入学を認める制度)の導入については、他市の事例を見る限り、課題解決に至るほどの生徒数の増加は見込めないことから、現時点で実施する考えはない。</p>		

(6) 教育委員会における本笠中学校の学校適正配置シミュレーションの変更の決定

本笠中学校区の地域の特性や通学距離に係る配慮などに留意しつつ、審議会での結果を踏まえて、最終的に教育委員会において本笠中学校の学校適正配置シミュレーションの変更を決定しました。(令和元年8月9日開催の「令和元年度第8回教育委員会定例会」において決定)

(7) 教育委員会で決定した本笠中学校の学校適正配置シミュレーション

統合先は滝野中学校とし、隣接校である小林中学校及び印旛中学校と連携して、通学区域制度の弾力的な運用を行い、小林中学校と印旛中学校への学区外就学を柔軟に認めることとします。



(8) 隣接校の現状

	滝野中学校	小林中学校	印旛中学校
所在地	印西市滝野 5-2	印西市小林大門下 1-4-1	印西市舞姫 2-1-1
開校年	平成 9 年	平成 2 年	昭和 50 年
生徒数の推移	令和元年度(5月1日現在):264名 →令和7年度(推計):404名	令和元年度(5月1日現在):140名 →令和7年度(推計):186名	令和元年度(5月1日現在):368名 →令和7年度(推計):313名
学級数の推移	令和元年度(5月1日現在):10学級 →令和7年度(推計):13学級	令和元年度(5月1日現在):8学級 →令和7年度(推計):6学級	令和元年度(5月1日現在):14学級 →令和7年度(推計):9学級
教室数	11教室	15教室	19教室
学校教育目標	次代を担う、豊かな心とたくましく生きる力を持った生徒を育成する	自ら学び 心豊かでたくましく生きる生徒の育成【校訓】一生懸命はかっこいい	自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成
学校の特色	○学校が位置する住宅地周辺は豊かな自然環境があり、里山学習林など教育環境として恵まれている。学区はほぼ開発された住宅地の範囲なので生徒の通学距離は短い。学区には、まだ宅地開発用地が若干残っており、住宅の建設が続いている。 ○保護者の学校への関心や協力・支援体制は高く、PTA 活動も自立して活発である。	○生徒数は平成 11 年度をピークに減少期に入っているが、施設設備は充実しており、落ち着いた学校生活を過ごしている。また、地域住民及び保護者の学校への関心は高く、大変協力的である。 ○特色ある教育活動として、「学習シラバスの作成と活用」、「地域と連携した防災教育」、「JRC(青少年赤十字)活動」に取り組んでいる。	○生徒は、地域の期待と温かい愛情に支えられ、落ち着いた中学校生活を送っている。 ○生徒の 9 割以上が部活動に参加し、どの部活も県大会出場やコンクール・作品展等を目指して、日々努力を重ねている。 ○学校生活では生徒の主体的な行動を尊重し、生徒の活動を生かした学校づくりを進めている。
部活動の状況 (令和元年度)	○陸上(男女) ○野球 ○バスケ(男女) ○バドミントン(男女) ○剣道(男女) ○ソフトテニス(男女) ○美術 ○吹奏楽	○陸上(男女) ○バレー(女子) ○バドミントン(男女) ○剣道(男女) ○硬式テニス(男女) ○美術 ○吹奏楽	○陸上(男女) ○野球 ○サッカー ○バスケ(男女) ○バレー(男女) ○卓球(男女) ○柔道(男女) ○剣道(男女) ○ソフトテニス(女子) ○美術 ○吹奏楽 ○科学

■令和元年12月19日開催の本埜中学校の今後の対応等に係る意見交換会■

本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに関するアンケート調査結果を踏まえ、今後の本埜中学校の対応等について、意見交換を行いました。

1 本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに関するアンケート調査結果

(1) 調査の方法

◎対象者：本埜小学校の児童及び本埜中学校の生徒の保護者

◎調査期間：令和元年11月11日(月)～令和元年11月25日(月)

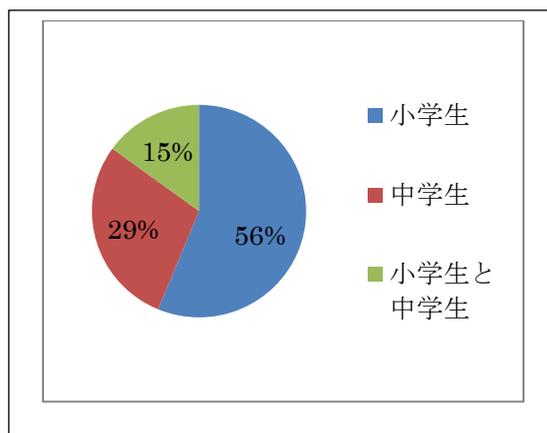
(2) 回収率

配付数	回収枚数	回収率
99	80	80.8%

(3) アンケート調査結果の概要

問1 あなたのお子様は、小学生と中学生のどちらですか。

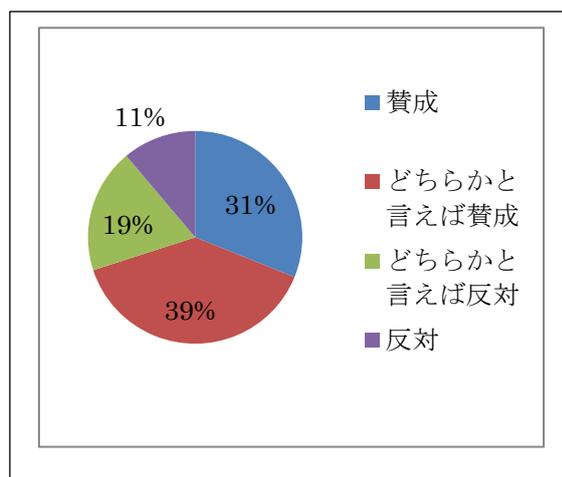
	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	小学生	45	56
2	中学生	23	29
3	小学生と中学生	12	15
合計		80	100



問2 子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の向上のため、基本方針における本壘中学校の学校適正配置シミュレーションに基づき、本壘中学校の滝野中学校との統合を進めることについて、あなたはどのように考えますか。

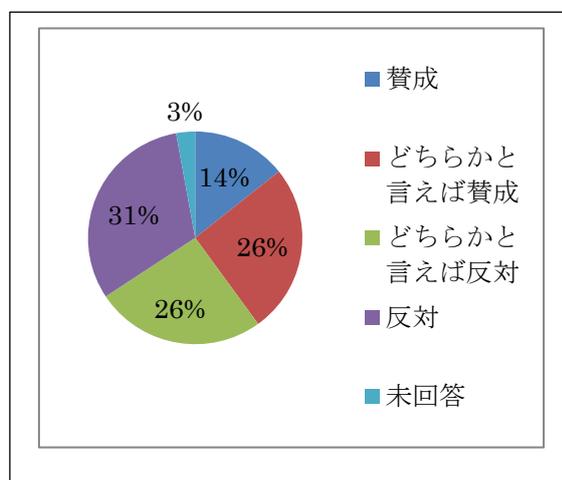
<問1で「小学生」を選択>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	賛成	14	31
2	どちらかと言えば賛成	17.5	39
3	どちらかと言えば反対	8.5	19
4	反対	5	11
合計		45	100



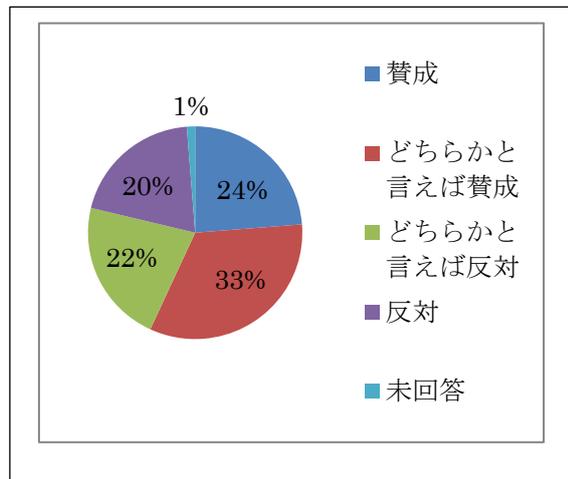
<問1で「中学生」または「小学生と中学生」を選択>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	賛成	5	14
2	どちらかと言えば賛成	9	26
3	どちらかと言えば反対	9	26
4	反対	11	31
5	未回答	1	3
合計		35	100



<全体>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	賛成	19	24
2	どちらかと言えば賛成	26.5	33
3	どちらかと言えば反対	17.5	22
4	反対	16	20
5	未回答	1	1
合計		80	100

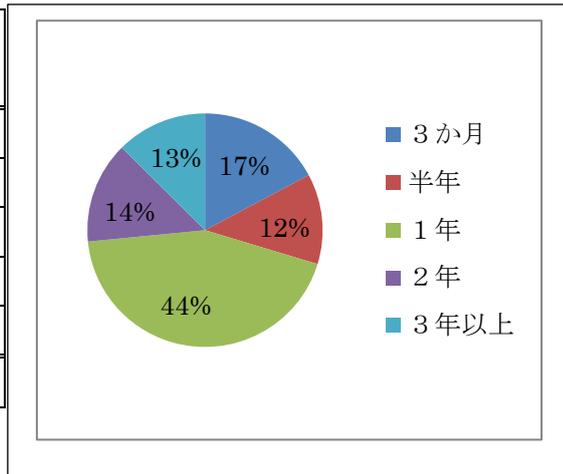


問3 問2で「1」または「2」に○をつけた方に伺います。

学校を統合する方向性が決まった場合、子どもたちの教育環境の早期改善のためにも、できるだけ速やかに統合した方が良いと考えますが、子どもたちの環境変化への対応などの面から、統合までの準備期間はどのくらい必要と思いますか。

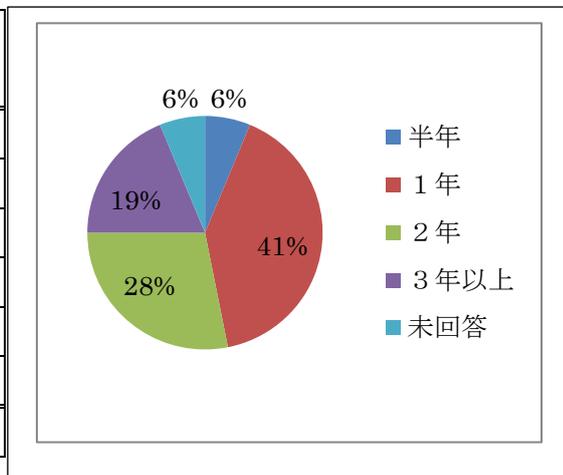
<問1で「小学生」を選択>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	3か月	5.5	17
2	半年	4	12
3	1年	14	44
4	2年	4.5	14
5	3年以上	4	13
合計		32	100



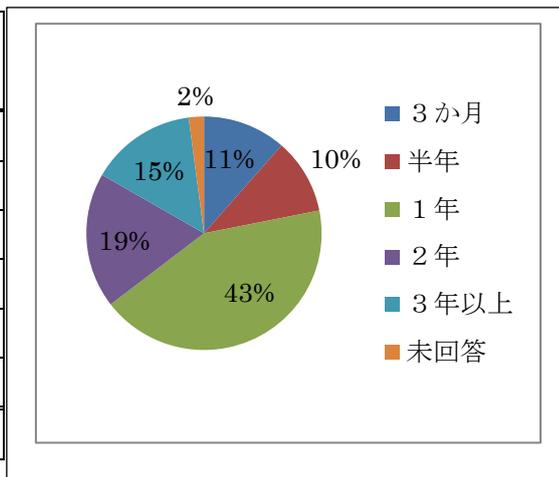
<問1で「中学生」または「小学生と中学生」を選択>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	3か月	0	0
2	半年	1	6
3	1年	6.5	41
4	2年	4.5	28
5	3年以上	3	19
6	未回答	1	6
合計		16	100



<全体>

	回答項目	回答数	回答率 (%)
1	3か月	5.5	11
2	半年	5	10
3	1年	20.5	43
4	2年	9	19
5	3年以上	7	15
6	未回答	1	2
合計		48	100



【説明会及び意見交換会での主な質疑応答等（要約）】

説明会及び意見交換会において、参加された保護者の皆様からいただきました主な質疑やご意見は次のとおりです。

■令和元年8月29日開催の本埜中学校の学校適正配置シミュレーションに係る説明会■

意見 先日、保護者と本埜地区の住民の有志で、本埜中学校の今後について、意見交換をした際に出た意見をここで紹介するが、ここで回答を求めるものではない。

- ・本埜小学校を新設し、地域一丸となって学校を盛り上げるべき時に本埜中学校の廃校を提案するのは本埜地区への配慮が欠けている。
- ・学校を無くすのは簡単、復活は不可能である。
- ・令和7年までは本埜小学校の児童数が維持されているのに、本埜中学校の廃校を急ぐ必要があるのか。
- ・廃校のデメリットを示すだけでなく、デメリットを最小限にする対策を考えてほしい。
- ・ニュータウン地区から本埜中への入学を希望した世帯があったらしいのですが、入学への障害があったとのことで、本埜地区から滝野小への入学は障害がないのに、本埜中学校を廃校させようとする悪意を感じる。
- ・保護者だけでなく、地域の声を聞いてほしい。
- ・結論がいつ出るか不安であり、在学中に廃校になる可能性のある中学校への入学は保護者として大変不安がある。
- ・学区の見直しをして生徒数を確保してほしい。
- ・小規模校への通学が可能であれば、行かせたい家庭があるか大規模校の学校にアンケートをしてほしい。
- ・本埜中学校は仲が良く、みんな一生懸命である。
- ・小中一貫校にするべきである。
- ・滝野中は今後教室数から考えてパンク状態なのだから、本埜中が滝野中の受け皿になる必要がある。
- ・本埜中を廃校して、本埜中の場所を小林中にしたらどうか。
- ・小林中の場所は避難所に向かなく、跡地利用や売却がしやすいため、ぜひ小林中が本埜中にきてほしい。

- 質問** 今回のシミュレーションの変更にあたり、印西市学校適正配置審議会の委員の中に本埜地区の方はいたのか。
- 回答** 委員の中に本埜地区の方はいないが、これまでの知識や経験が豊富な方を中心に委員を選任し、委嘱をしている。今回のシミュレーションの変更は、審議会での意見を踏まえて教育委員会が決定したものである。
- 質問** 本埜中学校に来春入学して、本埜中学校で卒業できるか。
- 回答** 今後の方向性によるが、子どもたちのより良い教育環境の整備を図るため、皆様の賛同が得られれば、早ければ、来年4月から、遅くとも、令和3年4月から統合したいと考えているが、皆様の賛同が得られない中で強引に統合を進めていく考えはない。
- 質問** 統合となった場合、通学距離が8km位になると思うが、時間や体の負担など、通学に対する対応はどう考えているのか。
- 回答** より近くの中学校への学区外就学を柔軟に認めることとしている。
- 質問** スクールバスを運行する考えはないのか。
- 回答** 現状で、他の中学校でもかなり遠くから自転車通学している例もあり、今後、スクールバス運行の検討を行うかなどについて、この場ですぐにお答えすることはできない。
- 質問** 早ければ来年4月に統合というのであれば、保護者向けの意見交換会等を毎月のようにまめに行ってもらえるのか。
- 回答** また、賛同を得るために保護者の多数決だけをとって終わりというやり方はやめてほしい。保護者と子どもたちを第一に考えていきたいと思っているので、皆様がよろしければ、意見交換や説明などについて、必要があれば毎月のように行うこともできると考えている。また、地域の方や考える会の方への説明も必要と考えているので、そちらの代表者の方々との会議等も定期的に行っていきたいと考えている。
- 質問** 仮に、保護者の多数の賛成が占める他の案が出た場合に、その案に変更するといった可能性はあるか。
- 回答** 今回は教育委員会のシミュレーションを提示したが、皆様から異なる案が出た場合、聞く耳を持たないという考えではない。
- 質問** 小さい学校から大きい学校への学区外就学は認めるのに、その逆は制限されるのはなぜか。
- 回答** そのような事例は把握してない。
- 質問** 幼稚園の保護者と話をする中で、実際にニュータウン地区に住んでいる人が本埜小に行きたいという声も聞かれるので、そのような需要に対するアンケートを実施してもらいたいが、以前、他の小学校区ではそのようなアンケートはできないと言われたと聞いている。できない理由を教えてください。
- 回答** まず、学区外就学については、個別に事情をご相談いただき、判断していることをご理解いただきたい。以前に他の小学校区においても同様のアンケートの要望があり、隣接するニュータウン地区の一つの小学校区の未就学児の家庭を含む保護者に対してアンケート調査を実施している。結果は、学区外就学を希望されない方がほとんどであったことから、本埜地区に関しても、今のところアンケート調査を実施する考えはない。

質問 滝野中学校がパンク状態になった場合は、どのような対応を考えているのか。

回答 最初の対応として、教室の増改築を考えている。

質問 印西市では、通学区域を自由にできないのか。

回答 現時点で通学区域を自由にする考えはない。

質問 通学区域を自由にしてもらえれば、小規模校は特色を出すことができると思う。

実際に、少なからず、ニュータウン地区の方で本埜の良さを知り、本埜地区の学校に行きたいと教育委員会に相談したが、断られたという友人を知っている。本埜地区を否定するような文章もあり、始めから統合ありきでなく、本埜地区を理解してもらった上で話し合いをしてもらいたい。

回答 本埜地区を否定するつもりはなく、教育委員会としては、小規模校でも貴重な経験ができると思うが、大人数での経験の方がより良いと考えているため、基本方針に基づき隣接校との統合を進めている。

また、ニュータウン地区の方から本埜地区の学校に行きたいとの相談に対して、学区外就学を断ったという事例は確認できないが、学区外就学の相談については個別にに応じていく。

意見 無形文化財の中根の神楽の伝承者として舞や笛の演奏を行っているが、市長から古き良き伝統を絶やさないために行政としても協力すると言っていた。

本埜地区から中学校がなくなり、他の学校に行くようになると、将来、子どもたちが地域のお祭りなどに参加しづらくなるのではないかと心配している。そういうことにならないよう、地域に子どもたちの居場所を残してほしい。

質問 今後の本埜中学校の生徒数の推移をみると現状とあまり変わらないので、保護者としては子どもが途中で転校することが一番嫌なので、少なくとも3～4年は本埜中学校を維持すべきと思うがいかがか。

回答 今後の生徒数の推移については学区外就学の人数を見込むことができないが、学区外就学の現状を考慮すると、実際の生徒数は資料に記載している人数よりも減少していくと考えている。

質問 今後、学区外就学をする人が増えてしまうことが考えられるので、来年度、再来年度に統合するような説明はしてほしい。

回答 現状のまま続けていくよりも、隣接校との統合により、子どもたちのより良い教育環境の整備が図れると考えていることから、このような説明をしている。

意見 他の学区から本埜中学校に来られるような対応をしてくれれば、生徒数が増え、このまま存続できる可能性もあるので、いきなり統合ではなく、長い目で検討してほしい。

また、統合をすると通学距離が長くなることや滝野中学校があふれることが分かっているのであれば、教室の増改築ではなく、本埜中学校で受け入れるなどの対応もできるのではないかとと思うので、本埜中学校をなくす前提で話をしてほしい。

質問 学区の見直しにより滝野中学校区の一部を本埜中学校区へ変更することは可能か。

回答 制度的には可能だが、滝野小・中学校に通学すると思って住宅を購入し、居住している方が多くいる中で、現実的ではないと考える。

質問 今後、滝野地区で新しい住宅ができれば本埜中学校区にしてもらうことはできるか。

回答 現在の通学区域との整合性を図っていくことになる。

質問 審議会の委員に地元の人たちが入っていないとのことだが、学校の統廃合は地元の人たちが入って議論すべきであると思うので、本埜地区の方の意見を反映しながら検討していく考えはないのか。

回答 その気持ちは十分にある。まずは、保護者の方が第一で、その次に地域の方と考えている。

質問 賛同を得られなければ進めるつもりはないとのことだが、賛同の基準はあるのか。

回答 賛同の基準は設けていないが、単純に多数決だけで決めるといった考えではない。

質問 これからの話し合いにより、今回の本埜中学校がなくなってしまうシミュレーションの案以外の存続の選択肢が出てくる可能性はあるか。

回答 教育委員会では、学校の適正規模、適正配置の観点から審議を開始しているため、今回のシミュレーション案の中で本埜中学校の存続の案は検討していないが、皆様から存続の案が出され、皆様の賛同があれば、その可能性はなくはない。

質問 人数の多い学校に入れることが子どもにとって価値があるように聞こえるが、通学距離が長くなることは良くないと考えており、子どもにとって何が大事であるかは個人や地域によって変わると思うので、そこを整理して議論する必要があると思う。

回答 議論することは必要なことなので、今後、地域の方々を含めて、議論をしていきたい。

質問 草深小学校を廃校したが、現状は人口が増えており、将来的な人口増を見込んでいれば、草深小学校は適正化できていたと思うので、本埜地区でも同じことが起こらないよう長期的な視点で検討を行う考えはないか。

回答 子どもたちの今置かれている状況や近い将来の状況は考慮できるが、長期的な視点というところまで見込むのは難しいと考えており、草深小学校の場合は、話し合いを重ねた結果、最終的に保護者から統合してほしいとの話があったと聞いている。

質問 単純に人数が少ない学校をなくするという基準だけで、将来的な考え方など色々な要素を考慮していないということか。

回答 何十年も先を推計するのは難しいので、令和7年度までの推計に基づいて判断している。
単純に人数が少ないから統合するというのではなく、少ないことによるメリットよりもデメリットの方が大きく、また、もう少し人数の多い集団で生活することによるメリットの方が大きいという考えで学校適正配置を進めている。

質問 大きな集団で生活するというメリットと通学距離が8kmになるデメリットについて、教育委員会と地域で考えのすり合わせを行う必要があると思う。

本埜中学校を無くさないでほしいという意見が多く出ている中で、教育内容を充実させて生徒数を増やし、本埜中学校を存続させる努力を教育委員会はしているのか。

回答 通学距離の8kmが遠いということは認識しているため、より近い中学校への学区外就学を柔軟に認めることとしているが、その他の具体的な対応については、まだこの場でお答えできるものはない。

また、教育内容を充実させて生徒数を増やせないかということについては、公立の学校であるため、教育内容はどの学校においても学習指導要領を基準とし、その上で、できる範囲内において各学校の特色を出して取り組んでいるところである。

■令和元年12月19日開催の本埜中学校の今後の対応等に係る意見交換会■

質問 中学校のことでなくて、小学校のことで聞きたいが、来年、新1年生で本埜小学校に入る予定の子のうち本埜小学校に入学しない子がどの位いるのか。

回答 今小学校に関する資料が手元にないため、この場でお答えすることができない。

質問 できれば、次回、名前等は個人情報なので必要ないが、こういった理由で他校に行ったのか資料等で教えてもらいたい。

回答 わかった。

質問 このアンケート結果を見て教育委員会の方々はどう思ったのか知りたい。

回答 中学生の子供を持つ保護者の方々の反対が多いのはもっともであり、小学生の子供をお持ちのご家庭では、賛成がこれほど多いのかと思った。

また、自由意見欄を見させていただくと、前の会議でもご意見をいただいた通学の安全というのが、どのご家庭でも一番心配しているところであると改めて感じたところである。

質問 親が一人でも二人でも反対する人がいれば、統合はしない方向で進んでいくという解釈でよいのか。

回答 統合に関しては、一人でも反対がいたらやらないということは考えていない。

どちらにも100%にはならないと考えているため、基準はないが、大方の意見が、子供達の事を考えたら統合することは仕方ないだろうという感じになったら、統合の方向に進んでいくしかないだろうと考えている。

質問 アンケートを見て、家庭数があるだけ色々な意見があることはわかっており、皆さんがアンケートに自分の意見を書いたと思うが、それを踏まえて、今後こういった動きがあるのか教えてほしい。

回答 今日の会議やアンケート結果を踏まえながら、今後の方向性を探っていくためにこのような会議を続けていく必要があると思っている。

方向性については、こちらからは原案を示させていただいているが、伺ったご意見について、こちらでできることを考えながら、皆様と話し合っていく機会を作っていきたいと考えている。

質問 最後は多数決ということか。

このアンケートをとるという意味は、最も多い意見を知りたいということで、アンケートをとられたということか。

回答 8月の説明会に参加することができなかった保護者が多かったため、そういった方々の意見を聞きたいと考え、アンケートを行ったところである。

質問 学区外を断られた事実はないとの件について、実際、この前この場で断られたことがあるということが実体験として質問があって、回答がその記録がなかったということだったと思うが、その辺りは実際に断られた方に、誰が教育委員会の誰に申請して実際に断られたのかヒアリングされた上で学区外を断られた事実はないと回答されているのか。

回答 そこまではしていない。

質問 記録がないので事実はありませんでしたというのに違和感があるが、この場にいる方が実際に聞いたことや体験したことで、断られましたと言っているのであれば、その方にどういう状況か確認した上で、調べることはできると思うが、そこになぜ踏み込まないのか理解が出来ないの、そこは調べる気はないのか。

回答 こちらは記録を調べたが、この後、できれば、今ご指摘いただいた件について、確認したいと思う。

質問 前回の8月に説明会をしていただいてから今日まで4か月位経っているのが、その間にこのアンケートの結果以外に学校統合についての進展は何かあったか。

回答 この前の説明会とこのアンケート結果を合わせ、通学に係る安全ということについては、考えていかななくてはならないと感じており、実際に具体的な案は出ていないが、いくつかの方向で安全対策を考えていきたい。

質問 アンケートでどういう結果が出たから統廃合を進めるとかという基準はないということ、また、なし崩し的に進めるつもりはないということは前回と変わりないか。

回答 変わりない。

質問 今回のアンケートは参考ということであって、この結果で方向性が決まることではないということが良いか。

回答 今回のアンケートの結果をもって統合ということはない。

質問 実際に自分の住んでいる地域の学校がなくなってしまうというのは、地元の方達にとっては、非常に重大な問題だと思うが、学校がなくなってしまうことについて、地元の方達へのアンケート等の予定はないのか。

回答 地域の方にご意見を聞く予定はあるが、アンケートを行うかどうかは決めていない。
まずは保護者の方々を優先的に考えているため、こういった会議を開催させていただいているところであり、時期等は決まっていないが、いずれ地域の方々を含めたこういった会議を開催したいと考えている。

質問 学校適正配置シミュレーションを作るときに地域の方の意見を取り入れずに案を作ったことについて、今も地域の方の意見を入れるということを考えているのであれば、案を作る時点でしっかりと入れるべきであると思うが、入れなかったのはなぜかというところが前回もはっきりとした回答がされてなかったの、今一度聞きたいと思う。

また、案を作るときに地元の方の意見を入れた案というのは、付け加えたりする予定は本当になのか。

回答 地域の方のお考えももちろん大事だが、第一に学校というのは子供の教育機関のため、まずは、知識や経験を有した方々のご意見を審議会でお聞きしたということで、地域の方を入れてということではなかった。

質問 その方達の意見を入れなかったからこそ、約8km位歩いて通うという遠方通学問題が出てきており、実際、地元の人達を最初から入れておけば、そういう点は問題点として出せたと思うが、そのプロセスを怠ったために、土地勘のない方の意見のみ取り入れた結果、色々地元の人から意見が出ている状況ではないのか。

回答 委員の方達は実際暮らしていないが、地図を見て、現地の事も車等で通って知っているような方々であり、7kmとか8kmとかの距離について知らないということはない。

質問 それを知っていながら、そういう状況で話がまとまったということなのか。

回答 当初、基本方針のシミュレーションでは、本埜第一小学校と本埜第二小学校はそれぞれ違う小学校への統合となっており、地図上の距離で長くても約5.9kmというような形であった。

本埜中学校の学校適正配置シミュレーションは、本埜第一小学校区は滝野中学校、本埜第二小学校区は小林中学校となり、本埜中学校は滝野中学校へ統合する形になっていたが、本埜第一小学校と本埜第二小学校の統合により、本埜小学校が開校したことに伴い、改めて審議会の中で本埜中学校の学校適正配置シミュレーションを決め、滝野中学校を指定校とし、通学距離が遠くなる場所については、弾力的な運用を行い、隣接する小林中学校と印旛中学校への学区外就学を認めることとしたところである。

意見 草深小学校をなくして、結局どんどん人口が増えて、人が入りきれなくなって原小学校と西の原中学校を増築することになっており、長い距離を通うのも大変なので、地元の人達はみんな草深小学校があった方が良かったと言っている。

滝野エリアはどんどん家が建てられており、現状を見ると、これから人口も増えて、パンクしていくのではないかなと思う。

前回のときも長期的なことは考えていないとお答えもあったため、実際に長期的なことを考えているのかとても心配で、今人が少ないからなくしてしまおうという短絡的な議論なのではないかなと思う。

質問 最初から地元の人が入っていて、意見を言う中で出てきた適正配置シミュレーションであれば納得できるが、そうではないので、納得できる答えがほしい。

このアンケートも本埜中学校がなくなってしまうであろうという先入観の中で行われたアンケートであるため、参考になるのかどうかと思う。

存続というプランも入れてこそ、公正な進め方なのかなと思う。

今からでも遅くないので、しっかりと地元の人意見を聞いて、中学校を存続させて地元をどう活性化させていくかというプランを天秤にかけて議論していただきたい。

この本埜エリアも東北部の学校をなくしてしまったら、この辺りもどんどん廃れてしまうのは自明である。

そういうことも考えた上で、学校統廃合プランをしっかりと考えていった方がよい。

これは意見ではなく、要望であり、持ち帰って、しっかりと進め方を検討していただきたい。

実際、8月の説明会の後に、本埜地区の学校を考える会などと意見交換をしているのか。

回答 本埜地区の学校を考える会の方々などとの意見交換はしていない。

また、要望については、それを踏まえて、今後の事を考えていきたいと思う。

質問 なくなるのが前提のアンケートや進め方はやめてもらいたいと思う。

今後地域の方々の意見をどのように取ろうと考えているのか。

回答 まだ地域の方々との話し合いを行う段階ではないと考えている。

まずは保護者の方々と今後の事を考えていくのが第一であり、子供達がより良い学校生活を送るためにはどうすればよいかということを考えている。

意見 子供達にとって一番良いというのは、子供達や地元の人に聞かないとわからないと思うので、その辺をくみ取って進めていただきたい。

また、その進捗については、保護者と共有していただきたいと思う。

質問 もし滝野中学校と統合するとなったら、それが決まってから、道路の整備やスクールバスの運行等の要望をしていくことになるのか。

回答 統合が決まってからだと遅い部分もたくさんあると思うので、仮に統合する方向に進んでいった場合には、統合を決める前に事前に示せば良いと考えている。

質問 当然、道路の整備等は教育委員会だけではできないことだと思うが、地元の意見等を聞き入れてもらって、そういった道路の整備等ができれば良いと思う。

また、条件次第で通いやすくなると思った場合、統合もあるのかなと思う人もいると思うので、できれば、早めに通学条件等も話し合いが出来たら良いと思う。

回答 わかった。

質問 滝野中学校から希望があれば本埜中学校に通うこともできるという話をしたらどのくらいの人が通ってくれるようになるのか調べてもらうことはできないか。

回答 通学区域が決まっているため、今すぐには、滝野地区の方々にそのように呼びかけることはできないと考えている。

◎おわりに

○子どもたちのより良い教育環境の整備を図るため、今後も、課題を共有しながら、引き続き、保護者の皆様との意見交換等を行ってまいりたいと考えております。

○地域の皆様にも、会議内容をお知らせすることにより、情報提供に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】

印西市教育委員会 教育部学務課

学校適正配置推進係 電話：0476-33-4704（学務課直通）

